

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析及び活用について

学校名

伊勢原市立比々多小学校

1 調査結果の分析及び考察

	特長	課題
A問題	<p>【国語】 漢字を正しく読むことやことわざの意味を理解して自分の表現に用いることは、おおむね良い結果である。</p> <p>【算数】 多くの設問で高い正答率が見られ、全体的には良好な結果である。「数と計算」の領域の正答率は8割を超えている。</p>	<p>【国語】 ・漢字を正しく書くこと。 ・手紙の構成を理解し、後付けを書くこと。 ・俳句の情景を捉えること。</p> <p>【算数】 ・資料から二次元表の合計欄に入る数を求めること。</p>
B問題	<p>【国語】 目的や意図に応じて適切な言葉遣いで話したり、引用して書いたりすることについては良好な結果である。また物語文の登場人物の相互関係や心情、場面について捉えることができている。</p> <p>【算数】 示された条件を基に適切な式を立てる問題や、示された考えを基に数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現する問題は良好である。</p>	<p>【国語】 ・目的や意図に応じて必要な内容を整理して書くこと。 ・理由を明確にして自分の考えをまとめること。 ・自分の考えや理由を書く記述式の問題に答えること。</p> <p>【算数】 ・複数の条件が組み合わさった問題を読み込み、意味をつかんだり自分の考えをまとめ上げたりすること。</p>
質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が毎日同じくらいの時間に起床し、朝食を毎日食べている。 ・ほとんどの児童が「家で学校の宿題をしている」、「好きな授業がある」と回答している。 ・「友達の前で自分の考え等を発表することが得意」と答える児童の割合が年々上昇しており、「話し合いで友達の話や意見を最後まで聞ける」も9割を超えている。 ・約9割の児童が「夢や目標を持っている」、ほぼ全員が「学校で友達と会うのは楽しい」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「テレビ等を2時間以上見る」が6割以下へと微減しているが、ゲームや携帯・スマホの使用が増加している。 ・自分で計画を立てて勉強する児童が約半数、予習や復習をするが約4割。月1回以上、図書室や図書館を利用したり、新聞を読んだりするが約2割にとどまる。 ・家の人と学校の話をする児童が約7割、家の人と将来の話をする児童は約4割にとどまっている。 ・地域の行事への参加や地域・社会への関心が低下している。

2 ① 授業の充実に向けた重点的な取組

<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや振り返り等を文章で記述する機会を増やし、書く力の育成や書くことへの苦手意識の克服をしていく。 ・読解力を身につけるために、家庭と連携して読書や新聞を読む活動に取り組んでいく。また、読書タイムの活用や図書室環境の充実などを進めていく。同様に、「読み聞かせボランティア」の活用と充実をはかっていく。 ・漢字の書き取りなどは、くり返し学習することで定着をはかっていく。 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語と同様に文章で記述する機会を増やしていくことで、理由や説明を記述する力を育成していく。 ・図を用いて考えたり、自分の解答の妥当性を検証したりする活動を大切にして、問題を正確に捉え解決する力、さらには、少し難しいと思われる問題にも挑戦する意欲や意志の育成をしていく。

2 ② 家庭(地域)への発信内容(協力依頼事項) ※家庭で取り組んでほしい内容や地域の方に知っておいてほしい内容

<p>各家庭において、「早寝早起き朝ごはん」について、かなり意識をして取り組んでいただいている様子が各調査に表れています。基本的な生活習慣の充実については今後もよろしく願います。一方で、親子の会話が少ない家庭が増えているという結果になっています。また、家庭学習が宿題と塾等の学習だけというお子さんも多いようです。宿題だけでなく、教科書やノートを開いて復習を行うなど、自分で計画を立てて取り組む学習習慣と、お子さんと顔を見ながら会話する時間を作っていただければ幸いです。教育委員会から配布されている「学びのすすめ」も参考にしながら、家庭での時間の使い方や生活習慣についてお子さんと一緒に考えていただきたいと思います。</p> <p>今年度の調査でも、家庭や地域で子どもを見守り、健やかな成長を支えている様子が見て取れました。地域の方々と連携し、協力していただく中で、子どもが活動できたり活躍できたりする場の設定や地域住民と関わる機会を充実していきたいと考えます。これによって、子どもの自己肯定感や自己有用感の向上を図っていきたいと考えています。</p>
